

## ぼくのしょう来の夢

五年 石神佑一

クロちゃんの面白い所は、プロッコリーを食べる事です。クロとは、ぼくがかつている黒ねこの名前です。プロッコリーが、夕食でテーブルにある時、つくえの上に乗ってぬすみにきます。プロッコリーをくわえて、ゆかに持っていつて見えない所でコッソリ食べていることがあります。それを見て、ぼくは、「クロちゃん、やったな。」と思います。好きな物は、魚とお肉とプロッコリーです。鼻が良いので、良い香りに気付くと音をたてずにジャンプして家族に気付かれないように、コッソリ食べにきます。でも、ねこは人間の食べ物食べてはいけない物があるのを、ぼくは知っています。だから、テーブルの上に乗ってご飯を食べようとしたクロを見付けた時は、「ダメッ。」と大きな声で注意します。クロは、「ばれたな。」という顔をして、すごい速さでにげていきます。それを見て「もう、クロは本当に困ったねこだね。」と思います。

でも、クロは困った所ばかりではありません。好きな所は、行動がゆっくりな所です。日の光にあたって、ゆかでゴロゴロしている姿が好きです。

ぼくが外でいやな事があって、泣いたり悲しんでいると、近くに来て頭をスリスリさせてひぎの上に乗っていやしてくれます。ぼくの気持ちをわかってるんだなと思います。

うまれた時からぼくはねこくらしているのです、ねこが大好きです。その中でもクロが一番好きです。クロもぼくの事が好きだと思っています。だからぼくは、クロが困っているとすぐ近くに行つてあげています。大切な家族の一員だからです。

実は、もう一びき家族だったねこがいます。初めて会つたのは、小学二年生の冬です。家のかん気せんの下にうずくまっているのを、ぼくが見付けました。背中に大きなきずがあつてガリガリにやせていました。「ねこがいるよ。」とお母さんに伝えて一緒に見に行くと、すぐいなくなるかなと思つていたけれど、同じ場所にいました。お母さんは「弱っているから、すぐに死んでしまうかもしれないよ。」と言いました。かわいそうになつてエサをあげたら、びっくりするほど食べてくれました。

鳴き声が変わり、「アオッ、アオッ。」と鳴いていました。家がかつているねこは、色の名前をつけています。「このねこの名前を「アオちゃん」と決めました。

お母さんと一緒に、毎日薬をあたえたり、お世話をしました。きずは治り太つてきて、結局一年半生きました。今もアオちゃんの事を思い出すと涙が出てきます。

ぼくのしょう来の夢は「保ごねこカフェ」を作ることです。アオちゃんみたいに家がなくて死んでしまふようなねこを、たくさん助けたいです。